

■英国：OFGEM、エネルギー料金に関する長期見通しを発表

英国の電力・ガス規制機関（OFGEM）は2009年10月9日、英国の家庭用需要家が支払うエネルギー料金が、今後10年間で14%から最大で25%程度上昇する可能性があるとするシナリオ（長期見通し）を発表した。英国では、エネルギー安定供給を図るために、老朽化により今後廃止が予定されている発電所に替わる新たな電源の開発が求められているほか、発電用の天然ガス需要が高まることによって、市場価格の変動が大きい天然ガスを調達しなければならないというリスクがある。また、温室効果ガスの削減目標を達成するためには、再生可能エネルギー電源を大量に導入するなどの対策が求められている。今回発表されたシナリオは、経済活動の推移や一次エネルギー価格動向の長期予測結果に基づいて作成されたが、こうした安定供給および気候変動対策を講じるために必要とされる設備投資費用は、最大で2,000億ポンド（約28.4兆円）に達する見通しである。そのため、OFGEMでは、こうした費用が需要家の料金に転嫁されることによって、エネルギー料金が上昇する可能性を指摘している。